



KTCC NEWS



2021年9月

受け入れ企業様インタビュー 大阪府K社



K社社長
(受け入れ職種)
機械加工
プラスチック成形

K社は2014年以降、毎年2〜3名の実習生を当組合より受け入れられています。現在は計7名が在籍。受け入れ当初のことから実習生に対する想いまで、色々なお話を社長にお伺いしました。

受け入れ当初

初めての实習生は、他の監理団体からの受け入れでした。コミュニケーションに対する不安はあったものの、社員たちは実習生を温かく迎え入れてくれました。伝え方にさえ気を付けていれば、コミュニケーションに困ることもありませんでした。大切なのは、お互いが分かり合える努力をすること。実習生から話しかけることはまだ難しかったので、我々日本人から積極的に声をかけるようにしました。また、彼らを下に見る社員が少なからずいたので、外国人だからと偏見を持たず、同等に接するようにしました。国籍の壁を取り払ったことが、受け入れ成功に繋がったと思っています。



印象的な出来事

寮で騒いで近隣にご迷惑をかけてしまいました。彼らもガスを抜きをする場を求めていたのだと思います。だからという訳ではありませんが、当社では年に4回、社員と実習生を交えたイベント（花見、BBQ、忘年会、旅行）を開催しています。実習生たちは、自分たちが楽しむというより、みんなと楽しめることが嬉しいようです。旅行では大浴場を恥ずかしがる実習生もいるので、なるべく内風呂の付いた宿を取るようになっています。今年はコロナで中止となったイベントもありますが、秋の旅行が開催できることを願っています。

日本語について

しっかり勉強するよう厳しく言っています。技能実習だけならN3程度の日本語力でも不自由しません。やはりそれ以上を目指すに欲しい。それには、そう思えるだけの動機づけが必要です。日本に残ることを希望するのであれば、特定技能外国人として雇用することも考えています。その必須条件に高い日本語能力の取得を置いています。

気を付けていること

共同生活をする寮であっても、プライベート空間を作っています。必ずひとりひと部屋を確保。ふたりに以上の相部屋にすることはありません。何かあってもその方が採めずに済みます。おかげで仲が悪くなるというトラブルは少なく、実習生同士うまくやっているようです。

実習生に対する期待

我々の期待ではなく、「彼らは何をやりたいか」ではないでしょう。せつかく日本へ来たのだから色々習得して欲しいもの、日本へ来るのがゴールになっている実習生がいるのも事実です。その先に何か目標を見つけたのであれば、遠慮なく言うて欲しい。そのために必要なことがあれば、何でも協力したいと思っています。

インタビューの間K社社長は、一貫して「特別なことはやっていませんよ」と謙遜されていました。

K社社長にとっては当たり前のことなんでしょうが、お話を節々で実習生に対する配慮を感じる事ができました。日本語の習得、生活の質の向上、目標達成。それら全てにおいて全力でサポートしていただき、感謝の念に堪えません。お話を通じ、K社の取り組みの姿勢は技能実習制度におけるひとつの理想形であると感じました。私たち監理団体も企業様の姿勢に負けることなく、より良いサポートをすべく身の引き締まる思いです。



心をつかむ実習生の名言

滋賀県D社の実習生が、高校の「国際貢献」の授業に招待された時のエピソードです。実習生1名と高校生3〜4名によるグループワークの中で、「『うてくたさい』でインタビューをしよう！」というセッションがありました。適切な言葉を埋めて質問文を完成させ、お互いインタビューし合うというもの。言葉を埋めるのは実習生の担当です。次々と言葉を埋めていく実習生コンさん。動詞の活用も完璧で、字も丁寧です。

② 名前をよみます。	(よんで) ください。
③ すきな食べ物は何？	(おしえて) ください。
④ すきなうたは？ (うたいます?)	(うたって) ください。

ところがそんな彼を悩ませるお題が出現します。

● なやみは？ () てください。

⑦ なやみは？
(すてて) ください。



コンさんはしばらくの間考えこんでいました。おそらく彼の中に、「おしえてください」という解答はあったのでしょうか。しかしそれは既に何度か出てきている言葉。そうではない何か新しいものを絞り出すように見えた。思案の末にたどり着いた答えがこちら。

この解答に高校生たちは、俄然興味を示しました。そして、「ベストアンサー！」「インタビューにはならないけど、それ好き！」「僕もそうさせてもらおう！」「今日イチの盛り上がりを見せていました。友だちを作りたいたいと言っていたコンさんでしたが、このパワーワードで高校生たちの心をグッと掴んだようでした。周りの人たちが優しい気持ちにさせる実習生の名言は、こうやって生まれました。

トラブル事例 SNSに潜む危険な罠

「ある番号に電話するだけで某有名ポイントがたくさん貯まる」という噂がSNS上で広がっていると、実習生から情報提供がありました。実態は課金が発生するものであり、当組合実習生ではありませんが、何回も電話したことにより何十万と支払わなければならない人があるとのことでした。また、「タブレットをお得に買える」などと偽ってSNS上で連絡を取り、キャッシュカードの暗証番号等をだまし取る事例も発生しています。

実習生にとってSNSは、家族や友人、組合スタッフとのコミュニケーションに欠かせないツールです。日々必要な情報を収集するためのツールでもあり、実習生の生活を豊かなものにするためにひと役買っています。便利である一方、間違った情報や犯罪につながる情報が溢れているのも事実。SNS上には真偽が定かでない情報が大量に出回っており、注意喚起はいたちごっこの様相。事例を交えながら地道に正しい情報を発信し続けていきます。



～ 世界の人々に日本を好きになってもらう ～

協同組合関西技術協力センターは、2002年に設立された外国人技能実習制度における受け入れ監理団体です。2019年には特定技能制度における支援機関として登録されました。教育・各種サポートは、受け入れ企業様に好評を頂いております。「日本企業と諸外国との架け橋になりたい」「日本で成長した若者を世界中に増やしたい」そのような想いで日々活動しております。「何の知識もないけれど...」「実習生と直接話してみたい」等々、お気軽にお問い合わせください。

Kansai Technical Cooperation Center
協同組合関西技術協力センター
一般監理団体/登録支援機関



発行・お問い合わせ ▶ 大阪本部 広報課 TEL:06-6333-2373 (平日9時~18時)

大阪本部 〒561-0832 大阪府豊中市庄内西町1丁目3番15号

名古屋事務所 〒453-0013 愛知県名古屋市中村区亀島2丁目14番10号フジオビルディング4F

広島事務所 〒730-0051 広島県広島市中区大手町3丁目8番1号 大手町中央ビル10F